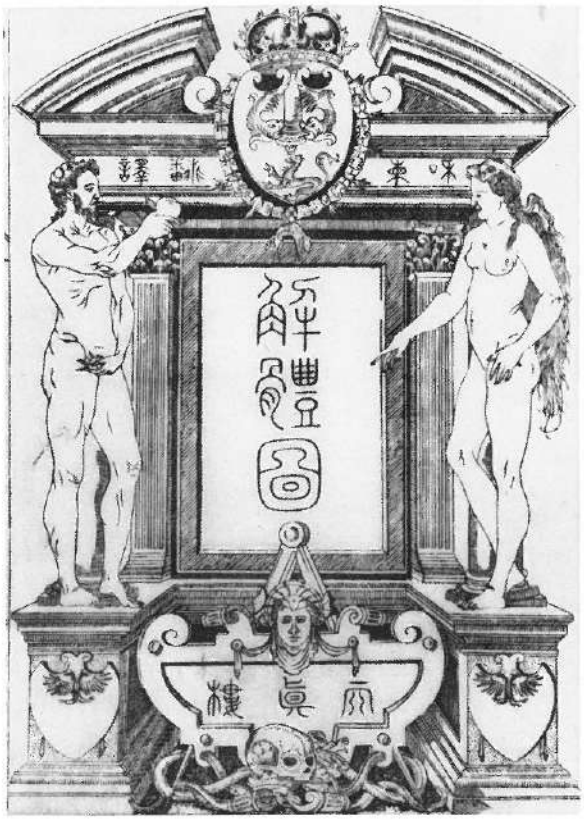
※記念講演「解体新書と杉田玄白」
（当館講堂にて）
講師　田辺賀啓氏
7月24日　午後1時30分

◀ 杉田玄白肖像（早稲田大学図書館蔵）
▼ 解体新書（小浜市立図書館蔵）



福井県立若狭歴史民俗資料館　企画展

杉田玄白

日本近代医学の先駆者たち

ごあいさつ

福井県立若狭歴史民俗資料館長　山本和夫

日本近代医学の父といわれている杉田玄白（1733～1817）は、わが小浜藩の出身です。同じ小浜藩医中川淳庵などと、オランダの医書「解体新書」を翻訳することによって、日本が西洋医学の暁を迎えることとなりました。

かつて毛沢東は、西洋医学と漢方医学は、車の両輪の如しといいましたが、杉田玄白のこの書によって、日本は江戸時代に、既に、両輪の医学に発展したといえます。この誇るべき先哲を持った若狭の歴史を、この企画展で明らかにすることができるでしょう。

わが国に近代医学の曙をもたらし、日本の近代化をも推し進めた先駆者たちには、なぜか若狭、ないし福井県に関係する人々が多くあります。中でも特筆される杉田玄白や中川淳庵を中心に、また、そこに至り後に続く流れを、少しでも広く理解できるようにと願ってこの企画展を持ちました。

出陳数は必ずしも多くありませんが、一般には容易に目にできない展示品ばかりです。あるいは郷土の先覚をしのぶため、あるいは日本史を肌で学ぶ資料として、御覧いただければ幸いです。

〔謝　辞〕

この企画展のために、御秘蔵の貴重この上ない什宝をお貸し下さいました皆様に、心からの御礼を申し上げ、また、計画の初めから終始懇切な御指導を賜りました岩治勇一・宗田一・田辺賀啓各先生に、深い感謝をささげます。

なお、この企画展を記念して、「昭和の玄白」と称えられます足立文太郎博士の世界的な解剖学の大著全5巻（ドイツ語版）を、当資料館へ御寄贈下さいました作家井上靖先生夫人（足立博士御息女）に対し、謹んで御礼申し上げます。

展示品解説

① 山脇東洋肖像(写)　　京都市　宗田一氏蔵

▲ 山脇東洋肖像

山脇東洋、名は尚徳、江戸時代中期の医師です。医学が空理空論に流れることを避けて経験・実証を重んじる古医方を後藤艮山に学び、その発展に努めました。宝暦4年閏2月7日には、京都所司代の許可を得て刑死体の解剖(観臓)を行ないました。この肖像画の原本は原在中の筆であり、山脇家に伝えられて来たものです。

② 蔵志　乾之巻　　京都市　宗田一氏蔵

宝暦4年に日本で初めて医学的解剖を行なった山脇東洋が、そのいきさつと観察結果を記録し出版したものです。東洋が中国古典にいう五臓六腑説に疑問をもち、人間に似ているといわれた動物のカワウソを解剖したが、どうしても納得できず、ついにこの日を迎えたことも書かれています。この書が刺激となり各地に実証的解剖の機運が高まりました。

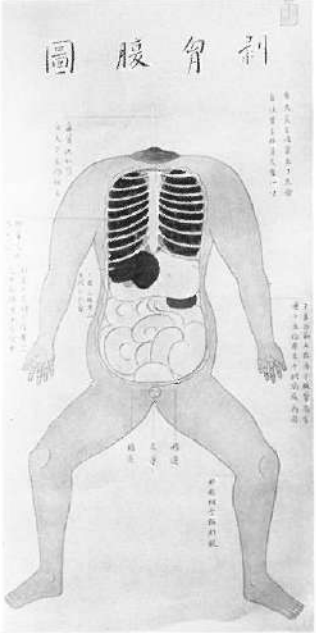
③ 蔵　志(複製)　　大野市　岩治勇一氏蔵

山脇東洋が著わした「蔵志」は解剖の5年後の宝暦9年に、関係文書とともに『蔵志並附録』乾・坤の2巻として刊行されました。乾之巻には4枚の解剖図（蔵図）が収められ、

これは木版で輪郭だけを墨刷りして内部を手で彩色したものです。その巻末には附録として、解剖された死刑囚に対する心からの慰霊と感謝の言葉（祭文）が収められています。

④　蔵　　図(写)　　京都市　宗田一氏蔵

初めて解剖が行なわれたとき人体内部の構造を、山脇東洋の門人浅沼佐盈（さえい）が描いたのがこの蔵図すなわち解剖図です。全部で４枚あり、これを原図とした木版刷り・手彩色のものが『蔵志』に掲載されたのです。なお、現存する蔵図（原画）の１枚には若狭の国学者伴信友の蔵書印が押されており、一時その手中にあったことを、うかがわせます。



▲ 蔵　　図

⑤　杉田玄白肖像(写真)　　東京都　早稲田大学図書館蔵

玄白の肖像として写真でよく知られているこの原画は、いま早稲田大学図書館に秘蔵されています。文化９年正月に、その前年にかかった重い病気も治り80歳を迎えようとする玄白を祝って、画家の石川大浪が描いたものです。この肖像の上の余白に、玄白自身が「太平の世に、閑（のどか）に祝う八十の春」を喜ぶ賛を書きつけています。

⑥　杉田玄白彫像　　小浜市　公立小浜病院蔵

杉田玄白が生存中に作られた彫像（関東大震災で焼失した）の写真や現存する肖像画を参照し、また玄白の偉大な業績や人柄をしのんで、日展評議員であった長谷川義起氏が制作されたブロンズ像です。

⑦　解　体　約　図　　大野市　岩治勇一氏蔵

『解体新書』を出版するに先立って玄白たちは、その刊行を予告し内容見本を示して世間一般の反応をためすために、安永２年にこの「解体約図」を発行しました。木版刷り５枚１組となっており、本文は杉田玄白が書き、中川淳庵が校閲し、熊谷元章が図を描いていますが、みな若狭の人です。展示されているのは日本に現存する６部の中の１部です。

⑧　解　体　新　書　　小浜市　小浜市立図書館蔵

日本で初めて本格的に翻訳された西洋の解剖書で、原書はドイツの医学者クルムスの『解剖学表』を、オランダの医師が訳した蘭語本でした。前野良沢・杉田玄白・中川淳庵ほかの大変な苦心により日本訳され、安永３年に出版されたものです。玄白たちが呼んだ「ターヘル・アナトミア」という原著名は、ラテン語の「表・解剖学」から来たようです。

⑨　解体新書(安永３年刊・某氏書入れ本)　　小浜市　小浜市立図書館蔵

『解体新書』は木版本５冊として刊行されました。第１冊には序文や凡例に続いて、丹念に描写された解体図が40頁にわたって収められています。第２冊以下は解説が、すべて漢文で書かれています。もと小浜町の図書館に所蔵されていた本書には、筆者は不明ですが

朱筆で多くの書入れがされており、この書を学んだ人の熱意がうかがわれます。

⑩　重訂解体新書　　小浜市　小浜市立図書館蔵

『解体新書』の出版ののち年をへて、玄白はその内容について「学問が未熟で恥かしいことが多い」といい、その改訂を門人の大槻玄沢に命じました。玄沢はその改訳増補を行ない、全13冊の『重訂解体新書』を出版しました。その中には、これで「原書の蘊奥を尽した」という寛政10年の玄白の喜びの識語も収められています。

⑪　重訂解体新書附図　　小浜市　小浜市立図書館蔵

これは文政９年出版の、『重訂解体新書』に付けられた解剖図です。大槻玄沢の付記によると、初め木版刷りする計画で南寧一が模写した図をもとにして、中伊三郎が更にオランダ語の原本と照合して銅版に彫り、出版されました。『ターヘル・アナトミア』の扉絵を始め、より「真に迫る」といわれる四十数頁の図が収められています。

▲ 重訂解体新書附図

⑫　形影夜話　　小浜市　小浜市立図書館蔵

享和２年に玄白が執筆したものを、養子の杉田伯元が文化７年に出版したものです。玄白が当直のときに書いたとされる随筆風のものですが、玄白の長年の研究と経験によって書かれた医学思想の書ともいわれています。乾の巻の最初に、石川大浪筆の玄白の肖像画が掲載されています。

⑬　瘍医新書　　小浜市　小浜市立図書館蔵

これはドイツ語の医書を蘭訳したものを原本として、杉田玄白および大槻玄沢によって日本訳されたものです。創痍（傷）や腫瘍などを始め、外科全般について書かれており、全50巻のうち、この４冊は寛政２年に訳されて、文政８年に刊行されています。

⑭　蘭東事始　　天理市　天理図書館蔵

文化12年に83歳の杉田玄白が、わが国の蘭学の始まりについて、思い出を記したものです。これを門人の大槻玄沢が師の命を受けて完成し、蘭学が東の日本に来たという意味から『蘭東事始』と名づけました。これを福沢諭吉が明治２年に出版したときには『蘭学事始』の名を用いています。原本の存在が不明であり、数少ない古写本が極めて重要です。

⑮　百鶴図　　東京都　杉田秀男氏蔵

玄白自筆の極彩色の大幅の絵です。深山幽谷に群れ遊ぶ丹頂鶴を描いており、寛政４年に60歳の誕生日を迎え、「百鶴図」を製作して児孫に与えるとの賛が書かれています。そこには玄白の喜びがあふれ、また画筆の才能が見事に発揮されています。御子孫の所蔵です。

▲ 百鶴図

⑯ 鶴亀之夢(複製)　　京都市　宗田一氏蔵

まもなく70歳を迎える玄白が、その前年に夢物語の形で書いた戯文です。日ごろ愛用している鶴の筆かけや亀の文鎮などの文房具が、夜中に話し合うという内容ですが、玄白の真意は、自己宣伝のみに努める学者仲間や世人を、鋭く風刺しているものといわれます。

⑰ 杉田玄白書(複製)　　小浜市　公立小浜病院蔵

「医事不如自然」(医事は自然に如かず)の書は、九幸老人すなわち杉田玄白が85歳の筆跡です。新しい西洋医学を学び日本近代医学の大先達となった玄白が、その人生において到達した究極の境地を表わす名言といわれます。この年、文化14年の4月17日、玄白は輝かしく充実したその生涯を終わりました。

⑱ 後見草(嘉永4年写本)　　小浜市　小浜市立図書館蔵

「後見草」は玄白が編述したもので、内容が上中下に分かれており、上巻のみは別人の記録を収めたものです。世の中に次々と起こる火災や疫病、風水害など多くの事変と世相の実態を記録しています。ここには当時の政治に対する玄白の考えも述べられています。

⑲ 杉田玄白書　　小浜市　田中雅次郎氏蔵

玄白は17歳のとき志を立てて学問の道に入りますが、医学の他に、荻生徂徠の孫弟子に当たる宮瀬龍門について漢学を学びました。この「生隠亭漫興」は、玄白の書として小浜に伝えられる極めて数少ないものの一つです。これは玄白の日記「鶚斎日録」にもあり、天明7年10月17日の作と知られます。

⑳ 蠏穴談　　小浜市　小浜市立図書館蔵

この原本は文化の初年に玄白が著述したもので、これを文化11年に玄白と親交のあった国学者の伴信友が書写し、それを更に山田吉令が写したものです。白鶴斎老人(ツル)と亀庵(カメ)の問答体で書かれた玄白の世情批評の書で、「蠏穴談」の名は文中に「蠏は自分の形に似せて穴を掘る」の諺を引用している所から付けられたようです。

㉑ 杉田玄白書　　小浜市　臼井義治氏蔵

「奉賀、成斎先生九十初度」と題する玄白の詩です。成斎は京都の学塾望南軒の講主として崎門学の正統を守った儒学者で、若狭とも特に深い関係がありました。これは、その西依成斎先生90歳の誕生日を祝って、玄白が贈った七言律詩です。京都や若狭の崎門学者と玄白の関係を知る上にも、貴重な資料と考えられます。

㉒　中川淳庵画像　　高浜町　中川嘉夫氏蔵

中川淳庵は小浜の藩医の子として、その任地の江戸で元文４年に生まれました。医学を修め後に藩の侍医ともなりますが、若い時から薬草などの本草学や物産のことに優れていました。蘭学に熱心であったため、『解体新書』の原本を入手するきっかけをも作りました。この画像は淳庵の没後、門人が模写して賛を加えたもののようです。

▲ 中川淳庵画像

㉓　中川淳庵夫妻画像　　高浜町　中川嘉夫氏蔵

淳庵には蘭学者・本草学者としても多くの業績がありました。特に日本の植物に詳しかったため、外国の書物にも紹介され、その名はロシアでも知られていた、ということです。蘭学をよく学んだ淳庵はオランダ語の手紙を残していますが、自分の名をSjunnan（ジュンナン）と書いています。この画幅は、先祖の肖像として今も中川家に秘蔵されています。

㉔　中川龍眠書　　小浜市　高成寺蔵

龍眠は中川淳庵の父です。龍眠は号で、名はその父と同じ仙安を襲いでいます。龍眠も名医として知られ、藩の奥医ともなりました。また、文筆にも優れ、特に書の大家として知られ、藩主酒井忠貫に書道を教えたともいわれています。この大幅の書は、『唐詩選』にもある中国の王維の詩を書いたもので、藩主への感謝と尊敬が込められているようです。

㉕　中川龍眠書　　小浜市　小浜市立図書館蔵

中川淳庵の父、医師で能書家であった龍眠の、特徴がよく現われた筆跡です。墨痕あざやかに大書された「乾坤一虚舟」とは、「天地は、何のわだかまりもなく、すべてのものを乗せる、大きな舟のようなものだ」とでもいう意でしょうか。この出典は今のところ不明ですが、恐らく龍眠が晩年に到達した心境を表明したもの、と思われます。

㉖　杉田成卿書　蘭語格言　　大野市　大野市郷土歴史館蔵

杉田成卿は玄白の孫で、文化14年に江戸で生まれた蘭学者です。父の後を継いで小浜藩の侍医ともなりました。蘭語その他にも通じ多くの重要な翻訳をしています。これは成卿自筆のオランダ語の格言で、知ることは大変に価値あることだ、行なうことは、なおさら価値あることだの意味が書かれています。大野藩主の土井利忠は終生成卿に師事しました。

㉗　達成図説　　小浜市　小浜市立図書館蔵

「達生図説」は近藤直義（退蔵）の著書で、上・中一・中二・下一・下二の全５冊となっています。嘉永７年７月の自序により、若狭藩侍医の直義が越前敦賀において書いたことが明らかです。賀川子玄の学統に属する産科医の書ですが、懇切な図解とわかりやすい文章によって、難産の母子を救おうとする心が、ひしひしと伝わってくるようです。

関係年表

西暦	年号	事項
1705	宝永 2	山脇東洋 丹波亀山の医師清水東軒の長男として生まれる。
1733	享保 18	杉田玄白 江戸の小浜藩下屋敷に生まれる。母は難産のため落命。
1739	元文 4	中川淳庵 小浜藩医仙安（龍眠）の長男として江戸に生まれる。
1740	〃 5	玄白 藩医の父甫仙が小浜詰となり共に江戸より帰る。
1745	延享 2	玄白 再び江戸詰となった父と共に江戸に帰る。
1749	寛延 2	このころから玄白、漢学を宮瀬龍門、医学を西玄哲に学ぶ。
1752	宝暦 2	玄白 小浜藩医となり江戸の酒井家上屋敷に勤務。
1754	〃 4	山脇東洋ら京都西郊の刑場にて官許を得て初めて死体解剖(観臓)。
1759	〃 9	東洋 先の解剖観察結果をまとめ『蔵志』出版。
1762	〃 12	山脇東洋没。実験医学を強調した功績は偉大。
1764	明和 元	淳庵 友人平賀源内に石綿で火浣布(燃えない布)を作らせる。
1765	〃 2	小浜藩主酒井忠貫日光勤番となり、玄白は藩の奥医として奉仕。
1769	〃 6	玄白の父杉田甫仙没。玄白あとを継ぎ小浜藩の侍医となる。
1771	〃 8	玄白、淳庵、前野良沢ら小塚原にて死体解剖(観臓)。
〃	〃 〃	良沢、玄白、淳庵ら『ターヘル・アナトミア』翻訳開始。
1773	安永 2	玄白ら『解体約図』発行。
1774	〃 3	玄白ら『解体新書』出版。
1778	〃 7	陸奥一関藩医の子 大槻茂質（のちの玄沢）玄白に弟子入り。
〃	〃 〃	淳庵 小浜藩の奥医を命ぜられる（藩主は酒井忠貫）。
1782	天明 2	一関藩侍医の子 建部勤（のちの伯元）玄白の養子となる。
1785	〃 5	小浜藩主酒井忠貫、江戸より小浜に帰還、玄白、淳庵随行。
1786	〃 6	淳庵病気のため小浜より江戸に帰り、6月7日没。48歳。
1790	寛政 2	玄白、大槻玄沢『瘍医新書』翻訳、文政8年出版。
1802	享和 2	玄白『形影夜話』執筆、杉田伯元文化7年に出版。
1815	文化 12	玄白『蘭東事始』執筆、大槻玄沢補筆完成。
1817	〃 14	杉田玄白 4月17日没。85歳。
1826	文政 9	玄沢『重訂解体新書』『重訂解体新書附図』出版。
1827	〃 10	大槻玄沢没。71歳。玄白らの次代を担った蘭学者の中心的存在。
1854	嘉永 7	近藤直義『達生図説』執筆。安政5年（1858）出版。

出　品　目　録（No.は概ね展示順）

No.	資　料　名	所　有　者（敬称略）
①	山脇東洋肖像（写し）	京都市　宗田 一
②	蔵志 乾之巻（平安養寿院板）	〃　〃
③	蔵志 乾坤２巻（複製）	大野市　岩治 勇一
④	蔵図（写し）	京都市　宗田 一
⑤	杉田玄白肖像（写真）	東京都　早稲田大学図書館
⑥	杉田玄白彫像	小浜市　公立小浜病院
⑦	解体約図 全５帳（安永２年刊）	大野市　岩治 勇一
⑧	解体新書 全５巻（安永３年刊）	小浜市　小浜市立図書館
⑨	解体新書（同・某氏書入れ本）	〃　〃
⑩	重訂解体新書（天保14年刊）	〃　〃
⑪	重訂解体新書附図（文政９年刊）	〃　〃
⑫	形影夜話（文化７年刊・伴信友手沢本）	〃　〃
⑬	瘍医新書（文政８年刊）	〃　〃
⑭	蘭東事始　※	天理市　天理図書館
⑮	杉田玄白筆 百鶴図	東京都　杉田 秀男
⑯	鶴亀之夢（複製）	京都市　宗田 一
⑰	杉田玄白書（複製）	小浜市　公立小浜病院
⑱	後見草（嘉永４年写本）	〃　小浜市立図書館
⑲	杉田玄白書	〃　田中雅次郎
⑳	蠏穴談（明治17年写本）	〃　小浜市立図書館
㉑	杉田玄白書	〃　臼井 義治
㉒	中川淳庵画像	高浜町　中川 嘉夫
㉓	中川淳庵夫妻画像	〃　〃
㉔	中川龍眠書	小浜市　高　成　寺
㉕	中川龍眠書	〃　小浜市立図書館
㉖	杉田成卿書　蘭語格言	大野市　大野市郷土歴史館
㉗	達生図説（近藤直義・安政５年刊）	小浜市　小浜市立図書館

※　天理図書館蔵「蘭東事始」は７月21日から７月31日まで展示。

昭和63年７月12日～８月７日

福井県立若狭歴史民俗資料館

〒917-02　福井県小浜市遠敷2-104　☎(0770)56－0525